

東京で2020年、オリンピックが7月に、そしてパラリンピックが8月に開催されます。猛暑が心配されますが、選手たちの素晴らしい活躍だけでなく、メダルの数も期待されます。パラリンピックに向けて頑張っている選手達は、障がい理由に不当な扱いを経験したかもしれない。でも、それらを乗り越えて頑張っている姿に感動します。

パラリンピックでは、主に身体障がいのある人が競技していますが、知的障がいのある人が出場できるのは2017年で、水泳・陸上・卓球の3競技のみでした。

知的発達障がいのある人の自立や社会参加を目的に「スペシャルオリンピックス」があります。日常的なスポーツプログラムやその成果を発表し、それぞれの努力と成長を確認、称賛し合う場です。オリンピックと同様に4年毎に夏季・冬季の世界大会があり、2019年にアラブ首長国連邦で夏季世界大会が



コラマ まるごと 人権の眼 No.53

「共生社会」実現への「協働」

人権擁護委員 小堀 禎員

開催されます。これらの大会を支えているのがボランティアです。選手の活躍の裏にはボランティア達のさまざまな活動があり、選手の間近で見ること、共に意識が高まり大会を盛り上げるために力を合わせているのです。

パラリンピックやスペシャルオリンピックスの活動や、選手の活躍を通して願うことは私たちの意識から偏見や差別を取り払うことです。そして、対等な関係で人格と個性を尊重し、支え合う「共生社会」を形成していくことです。

いろいろな人権課題に直面している地域では、共生社会の実現に向けた福祉の輪が広まっています。ボランティア活動だけでなく、課題を把握し解決するために、住民と関係機関とが「協働」で支援することにより、誰もが参画し主体となった互助活動が進められています。住民が笑顔で安心して暮らせる社会の実現を目指していきたいです。



「もう一度 あの花辺へ」

4人に1人が65歳以上という超高齢社会の到来を目前にして、老老介護や高齢者に対する虐待が深刻な社会問題として取り上げられています。高齢者を疎外したり、虐待する行為は、どこ家庭でも誰の身にも起こりうる身近な人権問題です。この背景には、家族の絆が希薄であることも要因のひとつです。

日常生活の中で高齢者の人としての尊厳を奪っていないか振り返り、高齢者が安心して心豊かな生活ができる社会



■DVD本編38分2003年度作品
【問い合わせ先】
淡路市市民生活部人権推進課
TEL：0799-64-2521
FAX：0799-64-2565

を築いていくにはどうすればいいのか、改めて考えてみませんか。

医療技術の発達により平均寿命はどんどん長くなってきていますが、退職後の人生を考える人がどれだけいるでしょう。そして実際にその年代を生きる人に対して、働いている人たちはどれだけ高齢者の想いを受け止められているでしょうか。

このDVDは15年前に兵庫県人権啓発協会が製作し、すでに老老介護についての問題提起がされてきました。15年という月日は、社会の構造が変わるには十分な長さです。将来の自分の生活がどのようになっていくのか、想像してみてください。

●編集後記・お詫び

前号52号（7月号）クイズ当選者の井上久香さんのお住まいを「井出」と表記してしまいました。「井手」の誤りでした。お詫び申し上げます。

本号から少し文字の大きさを大きくしました。お伝えしたいことがたくさんあるので、どうしても文字数が多くなるのですが、少しでも読者の皆さんに読みやすくしようと思います。

(PA)

第52号のクイズの当選者は次の20名です。図書カードをお送りします。(敬称略)

平井史子(志筑) 小島千代子(志筑) 酒井八重子(志筑) 畠田三枝子(志筑) 巖田真緒(志筑) 登里悠未(中田) 川添万知子(大谷) 笠谷公二(木曾下) 立石昌之(釜口) 河上真純(釜口) 猪坂真里(久留麻) 谷口悦子(楠本) 平田備子(岩屋) 中田充子(野島轟木) 岡本裕子(斗ノ内) 中野美知子(室津) 高森紀代(室津) 上坂房子(郡家) 西林勝子(尾崎) 出口陽子(明神)

※正解は、「ターミナル」。応募総数は、74通でした。